

学校自己評価報告書
(平成28年度)

平成29年9月

学校法人 国際総合学園
アップルスポーツカレッジ

目次（評価項目一覧）

1. 教育理念・目標

- 学校の理念・目的・育成人材像は定められているか
- 学校における職業教育の特色は何か
- 社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか
- 学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか
- 各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか

2. 学校運営

- 目的等に沿った運営方針が策定されているか
- 運営方針に沿った事業計画が策定されているか
- 運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか
- 人事、給与に関する規定等は整備されているか
- 教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか
- 業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか
- 教育活動等に関する情報公開が適切になされているか
- 情報システム化等による業務の効率化が図られているか

3. 教育活動

- 教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか
- 教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか
- 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか
- キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか
- 関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか
- 関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか
- 授業評価の実施・評価体制はあるか
- 職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか
- 資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか

- 人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか
- 関連分野における業界等との連携に置いて優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか
- 関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか
- 職員の能力開発のための研修などが行われているか

4. 学修成果

- 就職率の向上が図られているか
- 資格取得率の向上が図られているか
- 退学率の低減が図られているか
- 卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか
- 卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善にかつようされているか

5. 学生支援

- 進路・就職に関する支援体制は整備されているか
- 学生相談に関する体制は整備されているか
- 学生に対する経済的な支援体制は整備されているか
- 学生の健康管理を担う組織体制はあるか
- 課外活動に対する支援体制は整備されているか
- 学生の生活環境への支援は行われているか
- 保護者と適切に連携しているか
- 卒業生への支援体制はあるか
- 社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか
- 高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか

6. 教育環境

- 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 防災に対する体制は整備されているか

7. 学生の受入れ募集

- 学生募集活動は適正に行われているか
- 学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか
- 学納金は妥当なものとなっているか

8. 財務

- 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか
- 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか
- 財務について会計監査が適正に行われているか
- 財務情報公開の体制整備はできているか

9. 法令等の遵守

- 法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか
- 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか
- 自己評価結果を公開しているか

10. 社会貢献・地域貢献

- 学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか
- 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか
- 地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか

1. 教育理念・目標

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の理念・方針・育成人材像は定められているか	4
学校の理念、方針のもとに特色ある職業教育が行われているか	4
社会経済のニーズをふまえた学校の将来構想を抱いているか	4
学校の理念・目的・育成人材像は・特色・将来構想などが学生・保護者に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材象は学科等に対応する業界のニーズに向けて方向付けられているか	4

(2) 現状

- 当校では以下の教育理念、教育目標を掲げ、人材育成を行っている。また、これらの教育理念、教育目標のもと、各学科において学科教育目標が定められている。

【教育理念】

本校は体育・スポーツ分野における知識と技術の取得を基に、実社会において優れた人材として活躍できる人間の育成を目標とする。

【教育方針】

- ・スペシャリストの育成：スポーツ界が求めている、優れた能力・知識・技術を備えたスポーツのスペシャリストを育成する。
- ・豊かな人間性の養成：社会常識・マナーをしっかりと身につけた、明るく健康で意欲的なスポーツ指導者を養成する。
- ・アドバイザーの養成：スポーツ全般を体験しながらアドバイザーとしての資質を養い、スポーツ関連企業で必要とされる企画運営能力、ビジネス知識等を習得させる。
- 当校の教育の特色として以下の点が挙げられる
 - ・ 学校周辺のスポーツ施設・運動施設・プロスポーツチームと連携し、現場スタッフにおける OJT 研修を展開し、即戦力人材育成を行っている。
 - ・ 職業力を高めるための、企業等と連携したインターンシップ等の職業実践型授業や付帯事業と連携した企画運営型授業を行っている。
 - ・ 卒業後の進路選択に備えて専門分野の資格取得に対応するための、課程認定校化等のカリキュラムを整備している。(認定校設置)
 - ・ 豊かな人間性を養うために地域行事への参加や、ボランティア活動などを実施している。
 - ・ 国際的な視野を養うため、海外研修（希望制）で実施している。
- 教育理念や教育方針は学生には入学当初に配布する「学生の手引き」に記載し、新入生オリエンテーションにて周知している。また、保護者には保護者会にて周知を図り、欠席者に対しては資料を送付し周知を図っている

- 当校では社会のニーズに柔軟に対応するため、主に社会人の入学を想定して、1年制の研究科を設置している。今後も社会のニーズを踏まえて、学科編成、カリキュラム、教育活動を見直していく。

(3) 課題と改善策

課題①：専門学校の特性をさらに訴求していく。

大学全入時代に入り、専門学校として役割が明確にされてきた。大きな違いは学費を抑制しながら、最短2年で業界就職ができ、且つ即戦力である事。また学生の希望次第では大学編入もできる。

改善策：近年、大学・短大・専門学校を含め、奨学金の返済できない卒業生が多い現状である。その為2年間であることから奨学金を抑える事も大きいメリットである。今後の入学対象者に訴求していく。

課題②：現在、学科において800時間／年間を超えている学科がある。それだけ専門性を追求した結果ではあるが、学生の就学時（日）が少なくなっていると考えている。また自習時間も少なくなっている事もある。その為、授業クオリティを下げずに、目標達成できるような年間時間数にしていくことを計画している。

2. 学校運営

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4
運営組織や意志決定機能は規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4
人事、給与に関する規定等は整備されているか	4
業界や地域社会に等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

(2) 現状

- 運営方針は部門長によって作成される資料に明記され、全教職員に周知される。
- 学校の運営については、学則および諸規定によって明確化されており、有効に機能している。また、教職員による運営組織については組織図、校務分掌を毎年作成することで明確化している。
- 教務・財務等の組織整備など、法人全体の重要事項については、理事会・評議委員会が組織され、定期的な運営状況の報告を行っており、不定期に発生する法人全体に関わる重要事項についても、理事会・評議委員会を開催して意志決定がなされている。
- 校内においては職員会議を定期的に行い、必要に応じて重要事項の協議あるいは周知を図っており、組織としての意志決定を効率的に行っている。
- 人事、給与については法人の就業規則並びに諸規定によって規定されている。
- 教育活動等については当校 Web サイト等により情報公開に努めている。
- 情報システムとしては、学籍管理システム、財務会計システム、予算検討システム、学校業務支援システム（学生納付金の管理等）等により効率的に運用されている。

(3) 課題と改善策

課題：学校周辺の通学路における学生の行動など指導する事がある。

改善策：年1回の近隣情報交換会で各自治会長様との情報共有しながら対策を講じる。

3. 教育活動

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
教育理念などに沿った教育課程の編成・実施方策などが策定されているか	4
教育理念、育成人材象や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成、見直し等が実施されているか	3
関連分野における実践的な職業教育が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標の達成に向け授業を行うことが出来る要件を備えた教員を確保しているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力の育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修などが行われているか	4

(2) 現状

- 学校の教育理念・方針を基に、各学科の業界特性を活かしカリキュラムが編成されてある。
- 各学科も目標到達を修業年数で修了でき、且つ業界ニーズを取り入れることを今年度も行い、その計画やシラバスを学生に配布している。また一部のカリキュラムでは、現業界企業従事者からの意見を取り入れ、シラバスに反映している。
- 授業で知識・ルールを学び、実践を各分野で現場実習として設置して、OJTを行っている。
- 授業評価については前期・後期の各期に1回、年間2回の学生授業評価アンケートを行っている。結果は担当教員にフィードバックされ授業の改善に反映されている。
- 成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確に定められており、「学生の手引き」に記載され学生に周知されている。現場実習等は、現場先担当者と連携し評価する場合がある。
- 資格取得についてはカリキュラムの課程認定を進めることで体系的に位置づけ取得しやすい体制を整備している。また、対策授業を取り入れることで学生の資格取得を支援している。
- 教員の資質向上については、専任講師は法人の資格取得奨励制度の活用による専門分野の

資格取得を含め、研修会、学会への参加等を奨励している。また、職員の能力開発については法人全体でマネジメントや広報等、各種研修に取り組んでいる。

(3) 課題と改善策

課題：現場実習先が多く（市内85カ所）、担当職員と実習担当者との連携が浅くなる

改善策：実習先を見直し、同じ実習先で複数の学生をお願いする事で、現場担当者と教員が連携できる時間を増やして、効率化を図る。

4. 学修成果

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	4
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

(2) 現状

- 体制として、就職部長と教務部長が連携し、外部対応と内部対応の役割を果たしている。年間目標・各月目標を設定し、学生指導を展開している。
- 各科の検定目標を掲げ、年間計画に沿って進めている。進捗状況に合わせて、追加講義等も行い、フォロー体制も計画している。
- 年間を通して、就学する上での動機づけ・モチベーション維持できるように授業・実習・行事を計画。また個別における相談等は担任だけではなく、学科単位でフォローアップできるように体制を組んでいる。職員会議では情報共有し全学生をフォローできるように職員の意識確認を行っている。
- 卒業生については校友会が組織され、校友会との連携により卒業生の動向を把握している。また、卒業生を学校に迎え、在校生に向けて社会人として必要なこと等を講演する計画・実施している。

(3) 課題と改善策

課題：卒業生が転勤や転職等で全ての勤務先を把握できていない状況が一部ある。今後は卒業生の就学状況や離職率調査を行う必要がある。

改善策：県内のOBOGの就業状況調査が優先として展開している。マンパワーの課題もある為、引き続き県外情報もヒアリングしていく。

5. 学生支援

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4
高校・高等専修学校との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

(2) 現状

- ・就職相談室を設置している。その室長と教務部長が連携し、内部・外部の連携を取っている。室長は主に各学科担任と連携し、就職活動支援をしている。
- ・財団法人日本産業カウンセラー協会による学校訪問対面カウンセリング制度、新潟リハビリテーション病院での院内対面カウンセリング制度を整備。日常の生徒活動サポートとして、事務局学生課が対応している。内容に応じては教務部長が面談にあたり、学生相談に対する体制を整備している。
- ・経済的な支援体制については、特待生制度、法人独自の奨学金制度、納付金の延分納制度等を整備している。また、事務局に担当窓口を設け、教育ローンや奨学金活用の相談を受け付けている。
- ・課外活動については、一定の基準を満たした団体について、学校公認のクラブ活動と認定し、活動費の補助等の支援を行っている。
- ・年2回（5月・9月）に保護者会を開催している。希望者には担任との個別面談を実施し、保護者との連携を図っている。また年2回学生生活動内容を掲載した学校新聞を年2回（8月、12月）発行している。
- ・卒業生に対してはHP・校友会を通じて在籍生活動情報を提供している。また、校友会と連携し、式典等の計画もしている。
- ・1年制の研究科を設置し、社会人のニーズに対応している。
- ・県内の部活動を中心に、選手としての身体のコンディショニングを向上させる為の講習会を行っている。

(3) 課題と改善策

課題：高校との連携によるキャリア教育・職業教育を今後も拡大させていく必要がある。

スポーツ業界における職業需要の現状や必要性を更に訴求させ、スポーツ業界従事者の選択肢を伝えていきたい。

⇒ 中学校への体験講座、高校（全日制・定時制）への運動指導講座を展開。

今後もできる範囲の中ではあるが展開していきたい。

⇒ インターンシップ現場では85箇所を実施。小・中・校・大学の部活動や授業内で、運動サポートやトレーナー実習を展開。民間施設では、整形外科・接骨院・スポーツクラブ・福祉施設・保育園・スポーツショップ・プロチーム等で現場経験できる環境を展開を継続中

6. 教育環境

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災に対する体制は整備されているか	4

(2) 現状

- ・各学科おける施設基準全て満たしている。各棟に教務室を設置し学生と教員がコミュニケーションできるように運営している。
- ・法人が所有する研修施設において、新入生オリエンテーション、就職研修を宿泊研修として実施している。また進級時には授業内でインターンシップ実習を取り入れ、業界と連携しながら、即戦力の人材育成に取り組んでいる。
- ・火災・地震等に備え、全校生徒を対象にした避難訓練（年1回）を実施している。非常時には、各自の防災グッズを常備している。

(3) 課題と改善策

外部施設を利用する事が有り、バス移動の時間を効率化する事が目標である。

各科時間割や施設の選定等を更に精査し、効率化することが学生満足に繋がる事と考えています。また合同授業を行う事で、教室の有効活用も検討していく。

⇒ ハード面では、未だ外部施設を利用していくことが多く、現時点では継続利用していく状況である。

7. 学生の受入れ募集

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学生募集活動は適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	3

(2) 現状

- ・学生募集については、パンフレット、学生募集要項を毎年作成し、入学希望者に配布している。また、年間を通して学校説明会を開催し、授業体験を実施する等して当校に対する理解を深めてもらっている。その他、学校長による県内高校訪問等による学生募集活動も実施している。
- ・学校説明会、HP、パンフレット等で進路実績（就職、進学等）・検定資格取得状況等を告知し、教育成果を参加者に伝えている。
- ・募集要項に各科の受験料、入学金、授業料、実習費等を掲載し、希望者には配布している。不明な点があれば常時回答している。

(3) 課題と改善策

現在スポーツ・運動要素は、医療業界、福祉業界、教育業界に需要度が高まっている。その現状を高校生に更に伝えていくことが必要であり、2年間で資格取得し、社会で活躍できることを理解し賛同してくれる人材を一人でも多く広めて、スポーツ・運動が社会貢献するように努めていく。

⇒2020年 東京オリンピック開催に向けて、スポーツ業界は拡大し雇用も増えていく傾向がある。そのような背景も伝えながら、高校生に訴求していく。

8. 財務

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	3
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	3
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

(2) 現状

- ・学校法人全体の財務基盤は、近年は安定的に新入生を確保することができており、中長期的に安定していると言える。
- ・予算、収支計画は法人本部の状況を鑑みながら、法人本部との調整で策定され、有効且つ妥当なものとなっている。
- ・会計監査については、法人本部の所管で外部監査、及び監事による内部監査を適切なスケジュールで実施しており、指摘事項があった場合は適切に是正措置を講じている。
- ・法人全体の財務情報については毎年資料を作成し、求めに応じて公開する体制が整備されている。

(3) 課題と改善策

- ・県内においても、少子化の影響は毎年毎に大きくなっています。また大学全入時代に突入し、専修学校の学生獲得はより困難になっています。しかしスポーツ業界において前述にも記載した通り、今までのスポーツ業界以外の医療・福祉・教育業界に運動や健康等の必要性は高まり、その役割を持った人材が必要な事は事実であります。現在、本校で育成している人材を現場でより活躍させ、その現況を高校生や高校側に伝えることで、理解と必要性を訴求していくが急務である。

⇒ 財務情報開示は HP で公開。

9. 法令等の遵守

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
法令、専門学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に対し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	3
自己評価結果を公開しているか	4

(2) 現状

- ・法令、設置基準の遵守について、所轄官庁との対応は法人本部で窓口となり一括して行っている。また、所轄官庁等からの通知についても法人本部を通じて学校に通知され、教職員に周知されている。
- ・個人情報の保護に関する規則は明文化されており、学生の手引きに記載され学生へも周知されている。
- ・教職員へのアンケート等も踏まえた自己評価を実施し、問題点については順次改善に取り組んでいる。平成 25 年度からは学校関係者評価委員会も設置し、自己評価の妥当性、透明性の向上を図っている。
- ・本報告書については、当校の Web サイトに掲載して広く公開している。

(3) 課題と改善策

- ・自己評価については、開校依頼、教職員、学生、保護者によるアンケート調査を実施し、学生運営の改善に反映させてきたが、評価委員会による評価、報告書の公開までに至っていない。平成 25 年度から自己評価報告書の作成と公開、学校関係者評価委員会の設置と評価の実施、公開を行う。
⇒ 自己評価の問題点を少しずつではあるが改善に向けて実施している。また評価結果を H 2 5 年より HP で公開している。

10. 社会貢献・地域貢献

(1) 自己採点 適切…4 ほぼ適切…3 やや不適切…2 不適切…1

評価項目	評価
学校の教育資源や施設を利用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4
地域に対する公開講座・教育訓練の受託等を積極的に実施しているか	4

(2) 現状

- ・地域の小中学校の総合学習における内容を一部受けている。今後も継続して取り組んでいく。
 - 1：小学校のバスケットボール授業
 - 2：小学校の文化祭バザー
 - 3：小学校の陸上指導
 - 4：中学校の職業講和及び体験授業
 - 5：中学校の食育セミナー及び運動指導
 - 6：高校部活動への運動セミナー（ストレッチ・テーピング等）を実施
 - 7：近隣の幼児・児童に対して、キッズスポーツ教室を定期開催
- ・自治会行事への参加、地域のスポーツイベント・県主催公式大会、プロリーグ公式戦でのボランティア等に積極的に学生参加させている。学生は年間で実習の一環として参加させ、単位を付与している。
- ・近隣自治会に向けて、授業内で高齢者対象として運動指導している。また県の国体候補選手強化育成の為、県協会認定コーチ及びトレーナーとして職員を派遣し、県内選手の強化をサポートしている。

(3) 課題と改善策

特になし。